

第68回 経営協議会 議事要録

日 時 令和元年6月27日(木) 14時00分～15時35分

場 所 大学本部棟第二会議室

出席者 澤 和樹 学長【議長】
安良岡章夫 理事・副学長
日比野克彦 美術学部長
桐山孝司 大学院映像研究科長

福井俊彦 委員、滝 久雄 委員、谷口維紹 委員
奥村幹夫 委員、富田哲郎 委員

陪 席 浜田健一郎 監事、金井 満 監事

清水泰博 理事・副学長、国谷裕子 理事、松岡正和 事務局長
岡本美津子 副学長、藪内佐斗司 副学長、八反田弘 副学長
佐野 靖 学長特命(社会連携担当)
北郷 悟 学長特別補佐(上野文化の杜担当)
保科豊巳 学長特別補佐(情報セキュリティ担当)
桂英史 附属図書館長

欠席者 遠山敦子 委員、福本ともみ 委員
迫 昭嘉 音楽学部長、熊倉純子 大学院国際芸術創造研究科長
秋元雄史 大学美術館長
箭内道彦 学長特別補佐(広報・ブランディング戦略担当)

- 議事に先立ち、議長から新たに経営協議会委員及び陪席者となった者の紹介があった。
- ・ 委 員：奥村幹夫 氏、富田哲郎 氏、福本ともみ 氏
 - ・ 陪席者：清水泰博 理事・副学長(研究担当)、八反田 弘 副学長(渉外担当)、松岡正和 事務局長、桂 英史 附属図書館長、保科豊巳 学長特別補佐(情報セキュリティ担当)

議題

1. 平成30事業年度に係る業務の実績に関する報告書(案)について
議長から標記のことについて提案があり、荻原戦略企画課長から資料に基づき説明の後、審議の結果、原案どおり承認された。
2. 平成30年度財務諸表(案)について
議長から標記のことについて提案があり、荻原戦略企画課長から資料に基づき説明の後、審議の結果、原案どおり承認された。
3. 社団法人の設立について
議長から標記のことについて提案があり、松岡事務局長から資料に基づき説明の後、審議の結果、原案どおり承認された。

報告及び連絡事項

1. 令和2年度国立大学法人施設整備費補助金について
標記のことについて、島田施設課長から資料に基づき報告があった。

2. 大規模な風水害等により被災した東京藝術大学入学志願者の検定料免除に関する要項の制定について
標記のことについて、安良岡理事から資料に基づき報告があった。

3. その他

*本学の取組みについて

○ 日比野美術学部長から、東京藝術大学履修証明プログラム「Diversity on the Arts Project (Door プロジェクト)」修了生の活動の様子がニュースで取り上げられた旨(放送された映像を流して)の報告があった。

○ 澤学長から、芸術文化における本学の近況について報告があった。
(本学の取組み)

- ・ 2019/5/22 ミャンマー政府の日メコン交流年事業”Beauty of Mekong”への参加
- ・ 2019/6/ 6 文化財保存学専攻による金剛力士像の修復過程における発見について
- ・ 2019/6/ 6 ブルガリ文化支援プロジェクト「メチェナーテ」×東京藝大 発足イベントを開催

(要人来学実績他)

- ・ 2019/6/10 田端浩観光庁長官が本学を視察

(受賞等)

- ・ 2019/06/24 国際芸術リソースセンター棟が東京建築賞を受賞

ご助言、ご提言等

○ 受託事業については、事業やイベント等を通じて新しい刺激を取り入れた上で本来の藝大の創造的な事業として次のステージに繋げていくといったことが前提条件であっていただきたい。ただ単に受託事業を受けるのではなく、本来の大学事業におけるダイナミックスの源であることを意識すべき。

○ 受託事業については、大学としての本来の役割があるので、資金に余裕がないからといって様々なことを行って運営資金を増やすということがあるならば本末転倒となる。

○ アートは社会を豊かにすることの原点である。アートとは何かを考えたときに、日本においての芸術・文化活動が人間社会にとって価値がある位置づけになってきている。文化について国民に経済と同じような価値を定量的に感じさせることを確立すべきではないか。そういう意味では藝大に期待することは非常に大きい。

○ 論文数が運営費交付金の新たな評価(指標)となっていることより、東京藝術大学という日本の文化国家を担うような大学は理不尽な位置づけをされているのではないかと思われる(論文を書いて競争的資金を獲得する大学ではなく、それが芸術の重要なところである)ので、こういった指標で諮られることについて、大学の特性を適切に評価するように訴えるべきではないか。

○ 社団法人の件について、受託事業の多寡だけにかかわらず、どのように謝金を分配するのか、藝大というブランドで受託事業されるかと思うので、直接携わった先生だけでなくどのように藝大全体の受益となるかも含めて仕組み作りを検討願いたい。

○ 大学のあり方を考えるときに、教育・研究及び本質的な部分と併せて地域の活性化、社会的な価値の実現等新しい尺度が大学の役割として求められているのではないか。

※その他

○ 小寺千住校地事務センター事務長より、配付資料「千住の1010人 in 2020年」、「音まち 千住の縁」、「東京藝術大学アトリエ・ムジタンツ」、「聞こえる人と聞こえない人の『音楽』をめぐるトーク」の報告があった。

○ 日比野美術学部長より、配付資料「東京藝術大学履修証明プログラム Diversity on the Arts Project」、「TURN NOTE」、「TURN JOURNAL」、「museum start あいうえの」、「とびラー募集」、「とびらプロジェクト2019」の報告があった。

○ 桐山大学院映像研究科長より、配付資料「OPEN STUDIO 2019」の報告があった。

○ 小林社会連携課長より、配付資料「藝大アンダーグラウンド」の報告があった。

○ 山中附属図書館事務長より、配付資料「第2回野澤コレクションでたどるヴァイオリン演奏の系譜～シモン・ゴールドベルクを中心に～」の報告があった。